

用語集

【CBCTに関する用語】

DICOMデータ：CTやMRIなどのデジタル画像データや関連する診療データを通信したり、保存したりする方法を定めた国際標準規格（**個人情報を含んでいる**）。

モーションアーチファクト：スキャン中の被写体の動きに起因するアーチファクト。

【IOS（口腔内スキャナー，光学印象）に関する用語】

STLデータ：3次元の立体形状を小さな三角形（ポリゴン）の集合体で表現するファイルフォーマットシステム。立体画像は白黒。

PLYデータ：多くの PLY ファイルには頂点と面のデータしか含まれないが、色情報、頂点の法線、アプリケーション固有のプロパティなど、その他のデータを含めることも可能。

OBJデータ：objファイルは頂点、法線などの情報が格納されている「.obj」とモデル色やテクスチャ情報を格納している「.mtl」で構成されるカラーデータ。

スティッチング：複数のカメラからの入力された映像を画像処理(歪み補正、明るさ調整)を行い、合成位置を調整しながら1枚の映像を作り上げること。

真度 (Trueness)：スキャンの正確性。測定値の分布が実際の値からどれくらいかけ離れているかの度合い。細かく取れば取るほど真度は向上するが、その分データ量も多くなる。

精密度 (Precision)：スキャンの再現性。複数回の測定値間でのバラツキの尺度。標準偏差。

総合精度 (Accuracy)：真度（正確性）と精密度（再現性）を合わせて評価した度合い。

マッチング：複数のデータを重ね合わせて一つにすること。

オーバーラップ：実際の噛んだ状態を口腔内スキャンして咬合採得した際に、上顎と下顎のスキャンデータをソフト上で取り込んだ時に生じる咬合接触部の重なり。

リアルバイト：口腔内スキャンを用いた咬合採得のこと。石膏模型を咬合器にマウントするのは異なり、実際に噛んだ状態をスキャンしているので「これが本当の咬合採得だ」と説明しているが…。

【ジルコニアに関する用語】

シントリング (焼結)：ミリング後、半焼結状態のジルコニアをシントリングファーンネスにて1200°C～1600°C程度の高温で焼結すること。焼結後のジルコニアは約20%収縮している。

【その他】

PEEK材：PEEKとは機械的強度・耐熱性・耐薬品性を求められる工業分野で金属の代替材料として使われているレジン材料で、生体親和性も高く、同じく金属の代替としてカテーテルや体内インプラントなどにも応用されている材料。

PEKK材：エーテル基に対するケトン基の割合が高く、強度はPEEK材の1.8倍と報告されている材料。

BiteEYE：咬合接触状態を可視化・数値化する歯接触分析装置（GC社製）。

デンタルプレスケール II：咬合力を可視化し、客観的に把握することができる咬合力分析システム

(GC社製)。

顎運動測定器：顎の動きを3次元で数値化できる装置。

XMLデータ：Extensible Markup Language「拡張可能なマークアップ言語」テキスト形式で3次元的な座標を表示できる。

デジタル貧乏：素晴らしいデジタル機器に魅了され、高額な過剰投資の結果生じる負債現象。

Maker Driven (メーカー主導型)：他社製品との組み合わせでは理想的なデジタル化を行うことができず、全ての機器を自社製品だけで揃える必要性が出てくること。メーカーも売却しなければ生き残ることが難しいため仕方ないかも…

Maker Free：自社製品のみではなく、歯科医師、歯科技工士各々が持っている他社デジタル機器でも、統一した見解と結果を求めることができるようになること（理想型として今後提案）。

エッジロス：模型スキャナーや口腔内スキャナーによる被測定物の縁端（エッジ）のデータが欠落し、いわゆる「なめられた」状態になってしまう現象。現在歯科で用いられる各種スキャナーは、三角形（トリゴン）の組み合わせとして表現するSTLデータとして収集するが、STLデータではこのエッジロスは構造上不可避であるとされる。

アライナー矯正

患者の歯列をスキャンし、得られたデジタルデータを各アライナーシステムの技工所に送り、歯科医師の治療計画の下、厚さ0.5mm程度の透明なマウスピース型矯正装置（アライナー）が製造される。一日約20時間以上口腔内に装着し、歯の移動に必要な枚数のアライナーを順次使用して歯列不正を改善する矯正治療。

STL データ

3DCADソフトにおけるファイルフォーマットの一つであり、Stereolithography（光造形法）の頭文字をとったもの。小さな三角形（ポリゴン）を大量に用いて立体的な集合体にするすることで、3次元の形状を表現する。3Dプリンターの入力時の標準フォーマット。

ボーイング エフェクト (Bowling effect)

抜歯スペースの閉鎖や前歯部を後方に移動する際に、アライナーが前後的に小さくなる牽引力に負けて臼歯部と前歯部がたわむ弓なり現象のこと。

クリンチェック (ClinCheck)

インビザラインを用いたアライナー矯正治療において使用される、予測シミュレーションソフトウェア。歯科医師が患者の歯列の現在の状態から治療終了時の予測される結果を可視化するために使用される。

ステージング (Staging)

歯を段階的に移動させるための可視化された移動プロセス。

ステージングのパターンは、患者の歯列の状態や治療目標によって異なる。

アタッチメント (Attachments)

ライナー矯正治療において使用される補助的な装置。アタッチメントは光硬化型レジンにて特定の歯に取り付けられる。歯を移動させるために適切な形状（長方形や楕円形、台形など）でライナーが歯を正確に把持するために用いられる。

IPR (Interproximal Reduction)

歯間スペースを確保するために用いるディスクング（歯間削合）のこと。

Nemo

スペインの NEMO TECH 社で開発された CAD ソフト。主に矯正のプランニングや補綴治療におけるモックアップ、スプリントやサージカルガイドなどの設計に適している。

インハウスライナー

院内で設計・製作されるライナー。歯科医師や技工士が歯科医院内で製作するため、外部の製造業者に発注する必要がない。CAD を使用してライナーの製作計画を立て、歯科医院内の 3D プリンターを使用してライナーの製造を行う。治療の進行をリアルタイムで確認しながら必要に応じて迅速にライナーを製作することができる。破棄するライナーが生じにくい。

TFA (Therm form aligner)

熱可塑性樹脂のライナーで、インビザラインをはじめ、通常のライナー矯正治療で使用されているライナーの材質のこと。

SMA (Shape Memory Aligner)

Graphy 社（韓国）が開発した形状記憶が付与されたライナー。3D プリンターから模型なしで直接プリントできるライナー。